



第37号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院  
〒650-0011  
神戸市中央区下山手通八丁目一番一号  
TEL 078-341-5949

# モダン寺新聞

別院だより

▲本堂での法要の様子

◀別院前庭でのお勤めの様子

## 宗祖降誕会盛大に勤まる

去る五月二十七日（日）、神戸別院にて宗祖降誕会が勤修されました。親鸞聖人のご誕生をお祝いする法要を、降誕会と言います。

親鸞聖人は承安三年（一一七三）四月一日（旧暦）にご誕生され、現在の暦に直すと五月二十一日あたります。

本願寺では、聖人ご誕生の地を記念して文化年間（一八〇四～一八一七）京都都の地に誕生院を建立しました。また、本山では毎年五月二十日・二十一日の二日間にわたり、宗祖降誕会が執り行されます。この二日間は、境内はもちろん周辺でも大変な賑わいを見せます。神戸別院でも降誕会当日は、天候にも恵まれ多くの参拝者の方がお見えになりました。まず午後一時より別院の前の親鸞聖人の銅像の前において讚仏偈のお勤めがあり、参拝の方々も読経中にお焼香をされました。

そして、引き続き午後一時三十分より三階本堂において法要が始まりました。法要是まず、行事鐘が堂内に鳴り響き、それに合わせて諸僧が入堂し、兵庫大学茶道部、仏教婦人会、仏教壮年会の方々により伝供（供物などを順次に手渡して、これを尊前にお供えすること）があり、滝口輪番の導師で参拝者と共に正信念仏偈作法第二種のお勤めが始まりました。お勤めが始まると満堂の堂内からは、讃嘆衆・参拝者の方々の声が相重なり、その声が堂内に響き渡り厳肅な雰囲気の中法要がお勤めになりました。



参拝者の前で挨拶を述べる滝口輪番

勤まりになりました。  
輪番がお勤め後に参拝者の皆さんに、「大変良い天候にも恵まれ、親鸞聖人のお誕生日を祝うにふさわしい日となりました。聖人がお生まれになつたのは一七三年五月二十一日です。親鸞聖人は『御同朋・御同行』、みんなお念佛申す者は、等しくお淨土に救われる」と私たちの目線に立つてお導き下さった方です。

その教えが受け継がれてあと十余年で八〇〇年になります。その間、教えが絶えることなく伝わってきたのは御開山聖人様の人柄に尽きると思います。お念佛を喜び、お念佛と共に真実を生きられたご開山聖人を偲ぶには、この降誕会は良い機会であります。

本日はようこそお参りになられました。」と、述べました。

お抹茶のご接待で心もおだやか

昨年と同様、今年も兵庫大学茶道部の学生によるお抹茶の接待が、法要の前とご法話の休憩時間に、本堂と同じ三階総会所に設けられたお茶席にて行われました。

接待をする学生は、親鸞聖人のご誕生をお祝いする降誕会にふさわしい鮮やかな着物姿で、見事な表千家流のお手前で参拜の方々にお抹茶と和菓子を振る舞われました。

皆さん口をそろえて「とてもおいしかった」と話される人や、中にはお抹茶の接待を受けるのが初めての方もいらっしゃり、「作法など」が全く分からなくて、どうすればいいのか戸惑いました」と、苦笑しながら話される方もおられました。しかし、みなさんお抹茶を飲まれた後は顔もほころび、とても有意義なひと時を過ごされた様子でした。

また、接待をした学生は「とても緊張しましたが、良い経験をさせていただきました」と語っていました。

法要後には別院職員もお抹茶の接待を受け、法要後ということもあり、職員一同と「ほっ」とした表情を浮かべて降誕会を無事に終えました。

兵庫大学茶道部の協賛もいただき今 年もとても充実した、宗祖親鸞聖人のご誕生をお祝いする降誕会となりまし た。



緊張した表情で接待をする学生



## 着物姿で伝員する茶道部の学生

法要に引き続き、本願寺派布教使の足利孝之氏（阪神東組 安養寺）をご講師にお迎えして『ご法話がございました。』ご法話は『「浄土がなぜ説かれたか』浄土真宗は浄土に生まれることを明らかにした真実の宗教』ということを中心にお話をされました。

かということをお話になりました。それは、「親鸞聖人がお淨土から出てきてくださった、親鸞聖人が阿弥陀様の使いとして我々のもとに来て下さった」という意味合いから『降誕会』と申すのであります。ど、とても分かりやすく説明され、参拝者の皆さまは納得の表情で聞き入つておられました。

親鸞聖人の教えは、人間の死に際を問題にするのではない。何が大事か。それは、「いま」である。これが「平生業成」であり、死ぬ時の教えでは意味がない。いま生きているこの時に「信心」をいただくことが何よりも大切である。

と続けられました。



## 力強く語られる講師の足利師

と、私たちが進むべき道を分かりやすくお話をになりました。

# お仏壇について考えよう

## お仏壇とは

願寺)から、本尊(ご)門主さまの印入ったをお迎えしましょう。

お仏壇とは、「仏さまを安置する壇」です。その仏さまとは、悩み苦しむ私たちを必ず救うという願いをもつた阿弥陀如来さまです。

つまり、私たちの心の拠りどころとなり、家庭生活の基盤になる阿弥陀如来(ご本尊)さまをご安置するためのものです。

## 何故手を合わすの

しかし、お仏壇には、ご先祖さまをおまつりするというのではなく、故人を縁として手を合わす習慣を身につけたいものです。

それでは、なぜ、お仏壇に手を合わせるのか。それは、お仏壇の莊嚴(おかげ)はご先祖さまが往生されたお淨土が表現されており、そのお淨土を偲び、そして、ご先祖さまや私たちをお救いくださる阿弥陀如来さまのご本願(おはたらき)に手を合わせるということです。また、正式には、ご本山(西本



## 過去帳について

浄土真宗では、位牌ではなく、「過去帳」または「法名軸」を用います。

「過去帳」とは、故人の命日を記すものであり内容は、法名・俗名・死亡年月日を記載いたします。通常時は、お仏壇の中段脇か下段に置きます。ご命日や法事の際は、台の上にその頁を開けておきます。

「法名軸」につきましては、仏壇の側板にお掛けいただくか、法事の時以外はお仏壇の引き出しなどに大切に保管してください。

## 華瓶について

真宗の場合、ご本尊へコップや茶湯器などに水を入れてお供えすることはありません。それは、なぜでしょうか。

それは、浄土真宗の大本教『仏説阿弥陀経』の中に、

「極樂国土 有七宝池 八功德水 充満其中」

## お供えとは

お仏壇にお供えするのは、お仏飯・餅・菓子・果物のみです。その中でも、特に

お仏飯が大事とされます。お仏飯は、仮飯器と呼ばれる器に蓮のつぼみ型に盛り、ご本尊前の上卓、または、仮飯台に置きます。基本的に、朝、ご飯が炊けたら一番にお供えしていただき午前中にお下げください。

餅・菓子・果物の順に重んじられており、供笥や高杯に相応の量を載せてお供えください。法事などで多くのお供えものがある場合は、お仏壇の前か斜め前あたりに台やお盆をご用意していただきその上にお供えください。

## お掃除について

お仏壇のお掃除についてですが、塗りの箇所は柔らかい布で乾拭きしてください。そして、金箔の箇所は、毛ぼうきや乾いた筆などで軽く払ってください。

いずれも、水分や塩分を嫌いますので直接手で触れないように注意してください。

また、真鍮製の仏具は、金属磨きを使つて磨いてください。

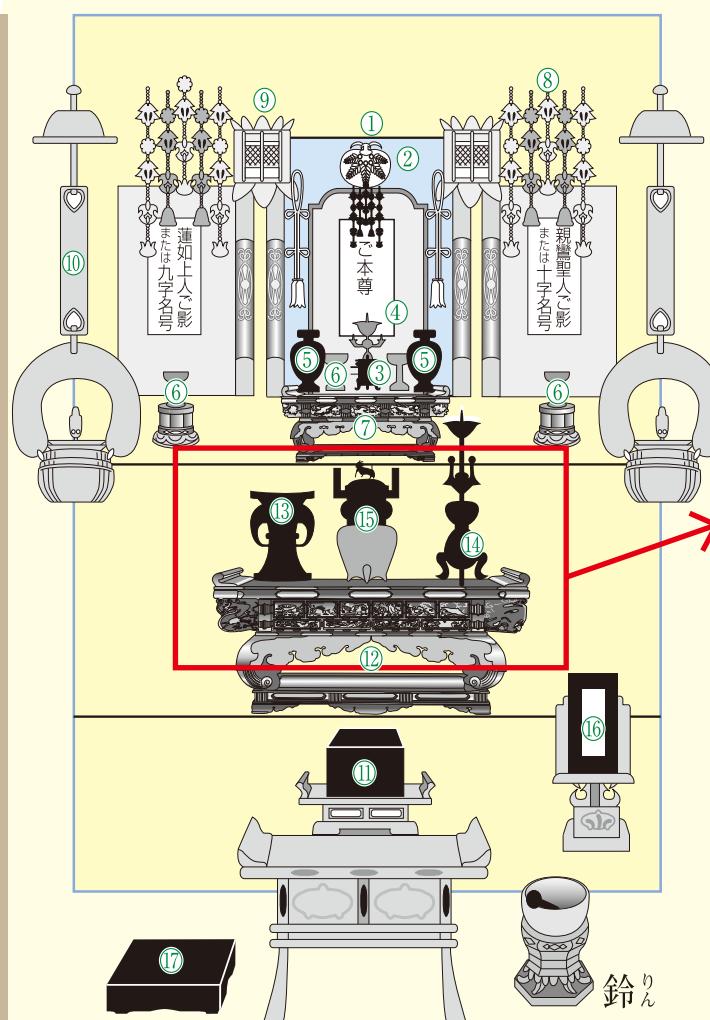
とあり、これは、「極樂国土には、七宝

がありその中には八功德水が充満している」と説かれています。「八功德水」とは、八つの功德が具わっている水であり特上の水であると考えられます。

そのようなことから、お仏壇は、お浄土たちが改めてお水を供える必要はありません。しかし、お水というものは私たちの生活にとって貴重なものであります。その貴重なものをお供えすることは大変大事なことです。その作法としては、華瓶一対(4頁⑤)に水を入れ、檜または青木を挿し上卓に置きます。これは、檜は香木でありますから清らかな香水とするためです。

## お仏壇の莊嚴・仏具の日常配置

- ①華 麋(けまん)
- ②戸 帳(とちょう)
- ③火 舎(かしゃ)
- ④蠟燭立(ろうそくたて)
- ⑤華 瓶(けびょう)
- ⑥仏飯器(ぶっぽんき)
- ⑦上 卓(まえじょく)
- ⑧瓔珞(ようらく)
- ⑨金灯籠(かなどうろ)
- ⑩輪 灯(りんとう)
- ⑪和 讀(わさん)
- ⑫前 卓(まえじょく)
- ⑬花 瓶(かひん)
- ⑭蠟燭立(ろうそくたて)
- ⑮香 炉(こうろ)
- ⑯過去帳(かこちょう)
- ⑰御文章(ごぶんしょう)



### 三具足

花瓶 左 蠟燭立 右  
火舎 獅子 前向き(私向)



蠟燭立や香炉などの足は1本足が前になるように配置してください。また、線香は横に寝かせてください。

## 年回忌・法事の莊嚴



五具足

年回忌法要の際は、三具足または五具足として水引や打敷をかけましょう。

- 過去帳はその頁を開けて置き、また、法名軸の場合は仏壇の側板にお掛けください。
- 蠟燭の色は、3回忌までは白色、7回忌以降は赤色が望ましいです。
- 仏華は、棘のある花や毒花などはお避けください。

ご法事の際は、焼香のご準備をお願いいたします。



手ごろな大きさのお盆の上に、香炉と香盒(こうごう)を置いてください。また、炭火をご準備ください。

お焼香は、浄土真宗本願寺派(西本願寺)の場合は、1回だけつまみそのまま焼香してください。

## 子ども会遠足



みんなで一緒にハイチーズ!!

こなどをして遊びました。子供たちにとって大変充実した一日になりました。

五月五日（土）午後一時半より本堂にて、筑紫文学園大学教授・牧野桂一先生は私たちの生活の中に生きる仏法ということをテーマにお話をされました。

五月十九日（土）に土曜子ども会の遠足がありました。行先は「布引ハーブ園」でした。当日は天候にも恵まれ、子供たちはハーブ園に着くと入口にあるロープウェイが目に飛び込むと一斉に目を輝かせ元気いっぱいにはしゃぎ出しました。ロープウェイに乗り、眼下に広がる自然と街並みに見とれている間に終着駅に着きました。

まず始めに今回の目的でもある石鹼作り体験に行きました。石鹼作りは数種類の香りの中から好きな香りを選び、色付けをしたり花びらなどで飾り付けをしたら、好みの型に流し込み完成しました。みんな個性豊かな世界に一つだけの石鹼が出来ました。石鹼作りの後はみんなでお昼ごはんを食べ、その後は園内の広場で鬼ご

として、その姿は教員である私の理想の姿でもあると続けられました。また、阿弥陀様はどんな人でも仏法を聞けば残らず幸せにする。それが「無碍光」だと思います、という先生のお味わいをされていました。

お話を最後に先生は、「阿弥陀様はあるがままの私を受け入れてくださり、あなたは、あなたの今まで良いと、呼びかけて下さる。」それが、生活の中に生きる淨土真宗の仏法であると、お話を最後を締めくられました。

## 第一土曜仏教講座



身振りを交えての牧野師

### 常例法座



笑顔で話される別所氏

毎月十五・十六日に常例法座が開かれていますが、五月は別所法宣氏（神戸市・教覚寺）を講師にお迎えしての法座でした。

先生はご讃題に『帰命尽十方無碍光如來』をあげられ、阿弥陀様のお姿についてご法話をされました。先生はご法話の中で「親鸞聖人ご在世当時の描かれていたる阿弥陀様は、そのほとんどが左下を向いていました。しかもそれは部屋の西の壁に掛けてあったそうです。臨終を迎えた修行者はお釈迦さまの臨終にならって、頭を北に西を向いて（頭北面西）臨終を迎えます。です

しかし、親鸞聖人はそういう阿弥陀様ではご本尊とは言えないと仰せになつたそうです。それはなぜか。これでは「死ぬ瞬間からの阿弥陀様になつてしまふ。阿弥陀様というのは今生きているときにこの私にはたらきかけて下さる。そういった阿弥陀様でないといけない」ということから、親鸞聖人は阿弥陀様のるべき姿を示されたのでした。このお話にはご門徒の皆さんも、首を何度も縦に振つていらつしやいました。

最後に先生は、「私たちはいつか必ず佛とならさせていただく身にあります。そういう言葉が聞こえてくるときに、今私は尊い命だつたんだと気づかせていただく。それは、私たちはお淨土に生まれさせていただくからです。」と述べられました。

## 法座のご案内

### モダン寺仏教講座 【永代経とは?】

六月

#### 別院仏婦定例法座

七日（木）午後一時半より  
◇講師◇宍粟組明源寺

常例法座  
杉山義伸師

十五（金）・十六日（土）  
両日ともに午後一時半より  
◇講師◇神姫組光輪寺

棚原正智師

二十四日（日）午後一時半より  
◇講師◇揖龍東組淨蓮寺

竹内俊之師

七日（土）午後一時半より  
◇講師◇(株)金剛組

第一土曜仏教講座

天台宗 近海山 万寶院  
石川了佑師

常例法座

十五（日）・十六日（月）  
両日ともに午後一時半より

◇講師◇神崎組淨光寺

高崎正英師

そもそも、永代経とはいつたい何のために行うものなのでしょう。よく永代経というと亡くなれたご先祖に対しうお経を奉げることを永代経の意味ととらえられる方が多いようです。辞書の広辞苑にも、「故人の供養のため、毎年の月忌や彼岸などに寺院で永久に行う読経。永代読経」と出でています。

しかし、浄土真宗ではそのような意味で永代経をお勤めするのではありません。浄土真宗でいう永代経は、亡くなられた方のご命日をご縁として聞法の機会を得て、お念佛の尊いみ教えをこの私の伝えてくださった有縁の方々の「遺徳を偲び、私自身が聞法に励み、そのみ教えを今度は子や孫に伝えていくことが「永代経」の意味するところです。

来たる六月二十四日（日）午後一時三十分より、別院本堂にて永代経法要がござります。また、お勤めに引き続き神戸別院でおせわになることになりました。まだまだ不慣れなことも多くご迷惑をお掛けする事もあると思いますが、宜しくお願ひ致します。

### 永代経法要のご案内

に仏法に触れさせていただきくということが何よりも大切なことだと言えるのではないでしようか。

また、永代経で頂いたご懇意は永代にわたって読経をしていき、お念佛の道場であるみなさまのお寺をお守りしていくために使われていきます。それは、お念佛の教えを永代に受け伝えていくことに他ならないわけです。浄土真宗の教えとは、阿弥陀如来のはたらきによつて恵まれた『南無阿弥陀仏』のお念佛によつて、浄土に往生し、仏様にならせていただく道です。この教えに基づいて永代経を勤めることで多くの方が浄土真宗の教えに遇い、阿弥陀如来のお心に触れることになります。

私たちが手を合わせ、お念佛を申すことのできるのは、浄土真宗の教えをよろこび、多くの方がお念佛の道を歩まれたからです。

この度、四月一日よりお世話になつております。お参りなどで見かけたら、どうぞ気軽に声をかけてください。これから宜しくお願ひいたします。



山口教区阿武組専正寺  
やすまけいや  
安間慶哉



安芸教区豊田東組順覚寺  
かめやまひろのり  
亀山宏法

この度、神戸別院でおせわになることになりました。まだまだ不慣れなことも多くご迷惑をお掛けする事もあると思いますが、宜しくお願ひ致します。

### 編集後記

今回、初めてモダン寺新聞を作成しました。いかがでしたでしょうか。なにか質問やご不明な点があればどうぞ連絡下さい。

### 新入職員紹介